2010.08.12「自国の立場を理解できない者に歴史を語る資格はない！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

お盆の時期になりますと、過去の戦争についてのお詫び等、戦争にまつわる報道が多くされ、政府からもコメントが出されますが、菅政権は、日韓併合 100 年に際し、10 日に、痛切な反省、お詫びということをまたまた発言をしました。私が国会で日韓基本条約について記して参りましたところ、法的な問題はないと答弁しましたが、一方で、今回の談話は、発表されているように、自分達の気持ちとしては、まだまだ反省が足りないのだ、歴史と正面から向き合って自分達がしたこと、悪かったことを認めることが必要なのだ、という論調で綴られているのですが、見当違いも甚だしいと思います。もちろん、韓国や中国の方々からすれば、この戦争は日本が加害者であり、自分達は被害者だという意識を持たれて当然だろうかと思います。しかし、日本人は日本人の歴史について、当時、どういう状況下で戦争が行われてきたのかを、しっかり認識しておかなければ、誰が日本人の立場を次の世代に語り継いでくれるのでしょうか。

例えば、8 月 6 日･9 日は、広島･長崎の原爆投下の日であり、総理大臣等が出席し、核廃絶を叫ばれたわけです。その広島の平和公園の石碑に「安らかにお眠り下さい、二度と同じ過ちは繰り返しませぬから」と書かれた有名な石碑がありますが、深く考えてみれば、一体、誰が誰に対して言っているのか、私

はいつも疑問に感じます。原爆を投下したアメリカ側が、亡くなった日本人の方々に対して、「安らかにお眠り下さい。過ちは二度と繰り返しませぬから」という誓いを立てているのならば分かるのですが、アメリカ側の立場の発言を、原爆を落とされた側である日本人が言っているのです。「安らかにお眠り下さい。過ちは二度と繰り返しませぬから」ということは、落とされた自分自身が悪かったという前提で石碑が建てられたということで、私は全く理解ができません。何十万人もの無辜の民の命を一瞬にして奪ったアメリカの蛮行に対して、日本人として絶対に許さない、また、占領中に、植民地支配のような主権のない形で徹底的に日本の仕組みを変えたことは絶対に許さないと、日本人が言うのであれば分かりますが、それさえ言わない。

　このように考えると、日韓併合の話においては、韓国や中国の方々の立場からすると、いくら日本人がアジア解放だ、自衛だの言っても、我々は植民地支配されたのだという見方で歴史を語られることは仕方がないことです。問題は日本人にあるのです。日本人が、自分達の歴史を、自分達の立場に立って振り返ることができないところに根本的な問題があるのです。菅総理や、民主党の政権におられる方々には、このような認識が全く無いのです。まるで、自分達が加害者であると認めることが正義にかなったことかのように勘違いされているようです。しかし、これは正義にかなうどころか、我々の政治･歴史に対する冒涜以外の何物でもないのです。そして、このような見せかけの正義感に

満たされて行っている政権の向かっている方向は、自分達の国の破滅以外の何物でもないということを、私は改めて申し上げます。

　自分達が加害者だということにより、見せかけの正義感を振り回すような幼稚な議論をするのではなく、自分達の国の良いも悪いも含めて自分達が引き受け、歴史を背負っていくために歴史を真正面から見て、自分達があの時代、もしも自分達だったら何ができたのかという、主体性のある歴史観を持って頂きたいと思います。皆様方にも是非、このお盆の時期にこういうことを考えて頂きたいです。いわゆる保守というのは、主義主張やイデオロギーがあるわけではなく、こういった真正面から歴史を見つめていくことが大事なのだと、そのことを皆様方にお話させていただきました。今後ともよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。